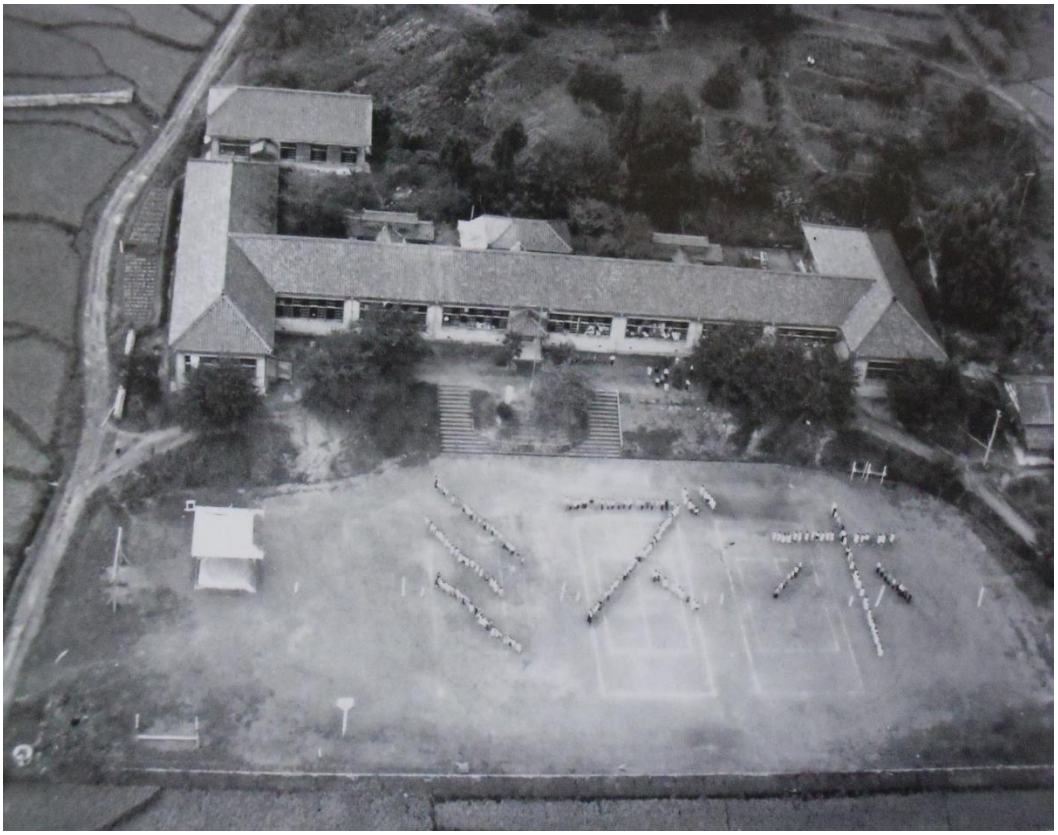
瑞穂の国



瑞穂地区歴史探訪事業実行委員会

能登町立瑞穂公民館

はじめに

瑞穂地区も年々過疎化・少子化が進み、中学校・小学校・保育所と子供たちの学び舎が無くなってしまい寂しい状況であります。
このような状況では当然、地元の歴史や文化財・伝統行事の云われやしきたりなど引継ぎも出来なくなってしまいます。そうなると祭事も簡素化され、しまいには無くなってしまいかねないのではと思い、瑞穂公民館の特色ある事業として瑞穂地区の歴史等を見直し伝統を継承してもらえるよう冊子を作ることにしました。
これを読んで「こんなことしとったんや」「あんなとこにそんながあったんや」「なるほどそんな云われがあったんか」と瑞穂地区を再発見し、伝統を受け継いでいって欲しいと思います。
この冊子作成にあたりまして、調査にご協力頂きました関係各位の皆様に、心からお礼申し上げます.

平成31年3月吉日

瑞穂地区歴史探訪実行委員会
能登町立瑞穂公民館

瑞穂地区の信仰

瑞穂地区は神仏の信仰に篤い地区で、屋敷神（地神）に庚申信仰や地蔵堂が数多く見られます。

屋敷神または地神

屋敷の隅や裏（セド）、あるいは近くの持地の山林などに神（仏）を祀る家が瑞穂地区の分かっているだけでも15ヵ所もあります。（2箇ある家もある）

祀てあるのは自然の木や石を神（仏）とみなし、祠の中や野ざらし状態であったりしますが家々で大切にされています。

屋敷神や地神がある家

（地　名）	（家　名）	（地　名）	（家　名）	（地　名）	（家　名）
三　田	上田家	神　道	泉家	武　連	前田家
院　内	国分直家	院　内	南家	院　内	杉原家
院　内	国分芳家	院　内	平野家	院　内	向平家
院　内	山岸家	院　内	高坂家	神　道	前田家
院　内	中口家	本　木	小畠家		

庚申信仰

庚申信仰とは庚申の日（かのえさるのひ　61日目に回ってくる）の夜、人間の体の中の三尸虫（シシムシ）という鬼神や霊魂のようなものが、人間が寝ている間に抜けだして人の罪悪を天帝に告げに行きます、そして天帝より罰を受け死を受けた人間の中の死尸虫は鬼となり自由になるのです。これを防ぐため、その日の夕刻より青面金剛の掛物を前にお経を唱えました。

瑞穂地区には庚申塚・庚申塔と言われる石碑が7ヵ所存在します。

これらが安置されている場所は神社や寺院、地蔵さま付近などですが、これは神、仏と共に信仰するためでしょうか？

本木地区（亀原付近）

町地区（今蔵橋付近）

神道地区（地蔵さま横）

そして3つ目に、お地蔵さまです。地区の所々にお地蔵さまが安置されていますが、地蔵堂として祀られているお地蔵さまが4ヵ所あります。

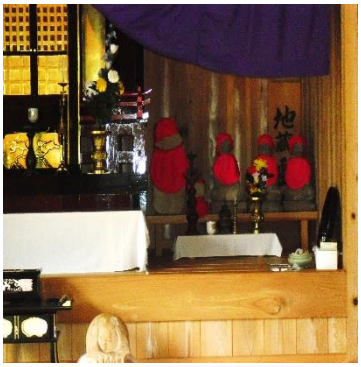
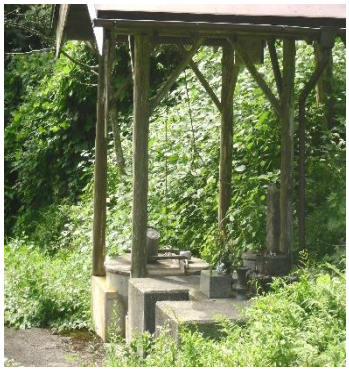
1. 高内畠の地蔵堂

4間×3間のお堂で、本尊と脇侍3体それに尊容板碑1体が安置されています。7月24日に地蔵祭りを行っています。

昔から、授乳に霊験のある地蔵さまと言われ、以前は2人の尼さん（アンジャ）が住んでいて御祈祷をしていたそうです。

『今から約400年前、上杉謙信に攻め入られ寺院を焼き払われた僧侶の1人が高野山に登り、1対の石地蔵を持ち帰りこの地にお堂を建て安置しました。

ある夜、僧侶の枕元に「この地に井戸を掘り地蔵にかける水とし、また病に苦しむ人をも助けよ。」とお告げがあり井戸を掘った。それ以来この水は眼病・皮膚病・胃腸病に効くと言われた。』と言い伝えられています。

2. 柱山の地蔵堂

2間×2間のお堂で8体の地蔵さまが、お堂の手前右横には庚申塔が安置されています。

5月18日に地蔵祭りを行っています。

安置されている8体のうちの1体は板碑の地蔵さまで、昔下の川原で火が燃えているのに驚いた向平栄作氏のご先祖が、火の中から拾い上げたものでニザイミ（仁左衛門）の地蔵と呼ばれています。

3. 神道の地蔵堂

6尺×6尺のお堂で本尊と脇侍2体が安置されています。

（本尊高さ43cmの座像、左脇侍高さ48cmの立像、右脇侍高さ48cmの座像）

5月8日に地蔵祭りを行っています。

この地蔵堂は石仏山のふもとにあるところから「口の社」「薬師大明神」とも呼ばれています。

昔から、乳の出ない人はこの地蔵さまに祈願することによって乳が授かるので「チチモライの地蔵」とも言われました。以前は地蔵堂の裏手に尼寺がありました。

4. 俎倉の地蔵堂

8尺×10尺のお堂で高さ37cmの地蔵さま1体が安置されています。

7月24日に地蔵祭りを行っています。

この地蔵さまは蓋淵地蔵・堂の下地蔵・船漕地蔵・石成地蔵・大林（おへい）地蔵などと様々な名称で呼ばれています。

祀てある場所が波並から俎倉を経て輪島方面へ抜ける道と、瑞穂から鶴町を経て柳田へ向かう道の交叉する四つ辻に位置していることや、地名などから名称がついたと言われています。

地蔵さまの由来としては「昔、俎倉の豪農に娘がいて器量が良く愛らしく気が優しく働き者で、近郷の評判になり数多くの男達が嫁にしたいと通ってきました。

その中の一人が、夕暮れ時に四つ辻の老松の陰に潜んで待ち伏せをしていて、思いを訴えたが相手にされなかったため殺害して逃走した。村人たちは哀れに思い手厚く葬り、地蔵を刻んで霊を慰めた。」と言われています。

＊ 瑞穂地区には沢山のお地蔵さまが安置されています。中にはお参りするとお乳の出が良くなるとか、神道の小林家横の地蔵さまは歯が治るとか、切地の地蔵と呼ばれる地蔵さまの前の石（持ってきた石と交換する）でイボを撫でると取れるとか、どの地蔵さまにもお参りするとそれぞれご利益があると言われています。＊

瑞穂地区の伝説・民話

1. 八ノ田洞雲寺の大蛇伝説

今から約570年前の話です。国道沿いの大杉（1991年の台風19号で倒れ、今は地蔵堂が建っている）から少し山に入ったところに池があり、周りは木がうっそうと繁り昼なお薄暗いところでした。その山奥にはつがいの大蛇が住んでいて、大蛇はいつも水を飲みに池に行き、大杉に首をかけて獲物を狙っていました。田畑は荒らされ、時には家畜はもちろん人間も襲いました。そのため道行く人は向かいの山や谷を通るようになり、村人は困り果てていました。

ある時、1人の僧侶（持外和尚）が村へやって来ました。尋ねると大蛇の話を風の便りに聴き、何とかしようとはるばる遠州（遠江）から来たというのです。そして言うことには、「私が7日過ぎても山から帰らなければ死んだと思ってください。」そう言い残し、村人の止めるのも聴かず山へ入って行きました。

山からは時々風に乗ってお経が聞こえてきましたが、7日が過ぎ、8日目の朝になってもお坊さんは帰って来ませんでした。

村人達は、やはり駄目だったかと思いつつも恐る恐る池の辺りまで捜しに行きました。すると驚いたことに水をたたえていた池は半分干上がり、息絶えた2匹の大蛇が横たわっていました。お坊さんは泥まみれになり疲れ切った様子で休んでいたのでした。

こうして村人達は安心して野良仕事も出来るようになり活気も出て来ました。

お坊さんは大蛇退治の功により、時の領主から広い寺領と一寺を建立してもらいました。

2. 龍神社伝説

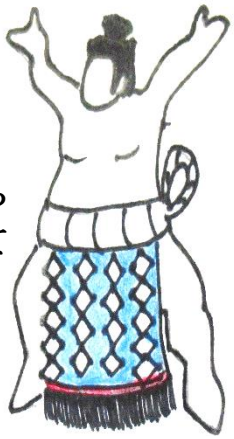
昔、山田郷の龍村（鮭尾）にある滝に大蛇が住んでいて人を取って食べて人々を困らせていました。そこへ、馬に乗って大穴持命（大国主）が現れ、退治してくれました。大蛇の尾の中から劔が出てきたので、劔を龍大明神として祀り、氏神としました。すると神体は馬乗せる武士の木像となったと言われています。

また、この滝の滝壷に「俎板石」という石があって、この石の上に鮭が2尾おのずから上がって死に、それが浮かんで流れてきました。これを獲って食べた者は癩病（ライ病）になると恐れられていました。

江戸時代に記された『能登名跡志』には

［村の内に暮の谷内という、大蛇の尾に劔あり。雨雲覆ひ重く
いつも暗く是則村雲の劔という。その時の淵の跡として沼となる。］とあります。

3. 太田原弥十郎



オードラヤジョロと呼ばれ、大変な力持ちでした。下駄をはいて両手に5斗俵を一俵ずつ持って歩くのは朝飯前、6尺立方の薪を積んだ牛が動けないでいたのを持ち上げたり、小舟に鰯が満載になっているのを持ち上げたり、石のさわったところに5本の指の跡が刻まれてしまったという話もあります。

相撲を取れば「水知らずのヤジョロ」と言われ何番勝負しても一杯の水も飲まなかったということです。どんな相手にも辛うじて勝ちをおさめたというから、状況に応じて力が出る能力の持ち主であると思われます。

体に鱗が3枚あり、手には水かきがついていたといい、和倉の湯の神、すなわち薬師如来の授かり子であったともいわれています。

4. 中将姫

三田の四郎右衛門は、ひょうきんで快活な人でした。公家の某中将の家に奉公している時も庭掃除をしながら、田舎の唄を歌ったり興を乗じて踊ることもありました。中将の楓姫は、この姿を見ようと時折縁に出てくることがあり、ある日「田舎の黒烏」とはやしたてました。四郎右衛門はすかさず「羽打ち揃へてたつ時は中将姫も下に見る」と句を付けました。姫のつつましくない言動を母はとがめ、家から楓姫を追い出してしまった。これを哀れんで四郎右衛門は姫を故郷に連れて帰ることにしました。船旅でたどり着いた所を姫埼（諸橋付近）、楓姫がお産した所を産田（三田）と呼ぶようになりました。

三田の地が凶作の多いことを哀れんだ楓姫は、山田川の淵に藻を投げ入れたところ数年のうちに繁殖し、人々は飢えから逃れることができたそうです。

藻を投げ入れた辺りを藻淵と言っていたが、いつの間にか武淵というようになりました。藻淵付近には、姫の乗った馬が降りてついた跡と言われる蹄のついた石や姫の亡骸を葬ったと言われる亀の形をした岡（亀山塚）があります。

蹄の跡のついた石

亀山塚付近

藻が投げ込まれた付近

5. 市姫伝説

昔、柳田村石井の瀬戸甚太郎と言う者が石井の本家から市神を盗み、山田郷にて市場を開設する事を願い出た。時の城主山田秀次は、神体のない場合は市を開くことは許可しないし、たとえ神体があっても盗品であれば認めないと許可を与えませんでした。

これを聞いた町に住む能登七兵衛の一女でおしめという娘が、山田郷の中心として商業が発達するならと、自分が市神となるという誓いを立て生きながらに地中に埋葬されました。

これを知った城主は市の開設を許可し山田御採とし盛大に続けられました。（市の事を山田縁取市（ヘットリ）とも呼んでいたそうです。）また、市と共に開かれた相撲大会も町中盛り上がったそうです。

「宵明星の入る折からに重蔵の神御幸する市姫の宮」という古歌が伝えられています。

6. 吉が池伝説

昔、吉谷というところの話です。ある晩、大雨と凄まじい風が起こり村人たちは一晩中生きた心地もなく過ごしました。嵐が去った明け方、村人たちは辺りの様子を見に行き、東の裾野にあったはずの水神池が山崩れの為跡形もなく消えいるのを発見しました。村人たちは心配になり、なおも周りを見てまわると村一番美しいヨシという娘が薄もやのかかった溜池のほとりに座っていました。

腰に鎌をさしていたので葭を刈りにきたようですが、見ていると水面に映った姿を見て櫛で髪をすいていましたが、池に櫛を落としてしまいました。

やっと捜しあて拾い上げた櫛を口にくわえたところ、何とも言えない美味しい味がしたので何度も水をすくって飲んでいました。不思議に思った村人たちが近づこうとしたその時、池の中から大きな龍が躍り出てきてヨシを池の中へ連れて行ってしまいました。村人たちは恐れをなし逃げようとしますが足は動かず、その間に池がみるみる間に大きく広がり、周囲3町ほどになったそうです。

昔は大小7つの池だったそうですが、そののち座敷池・納戸池・台所池と呼ばれる3つになったそうです。ちなみに、座敷池が今の葭が池だそうです。

注： 伝説については色々な本などを参考にして、わかりやすく編集してまとめてあります。

瑞穂地区の寺院・神社と文化財

1. 寺院

・明亀山　太盛院　（山田地区）

・高豊山　最安寺　（西安寺地区）

※ 町指定史跡（昭和50年12月25日）　中世墓地跡

・鳥越山　長龍寺　（山田地区）

※ 町指定工芸品（昭和53年1月19日）　梵鐘（天和2年　1682年）

・能冨山　光明寺　（武連地区）

※ 町指定天然記念物（昭和47年3月21日）　ミズバショウ群生

・不動山　霊山寺　（院内地区）

白山・石動山を開いた大徳泰澄の開基とし、瑞穂付近一帯が
天竺霊鷲山（インド・釈迦の浄土とされる）を彷彿させるところ
から霊山寺と号したとされています。

※ 町指定彫刻（昭和35年6月2日）　薬師如来観音菩薩

右側・・木造観世音菩薩坐像（平安11～12世紀）像高・159cm

左側・・木造薬師如来坐像（平安11～12世紀）　像高・140cm

霊山寺山門は1本の釘も楔も使っていない精巧かつ堅牢な造りで、飛騨の工の作と言われています。寺院と神社が同じ敷地に並んでるって不思議な感じです。

・龍河山　洞雲寺（八ノ田地区）　宝徳3年（1451）2代物外性応大和尚

瑞穂地区の伝説に記載してある大蛇伝説のお寺で、物外の師如仲天闇を勧請開山とし自らは2世としたと言われています。

物外伝衣（二十五条袈裟）・蛇骨・寺領寄進状が保管されています。

昔は大蛇の鱗が付いていたという袈裟

大蛇の骨　飲むと病に効くと言われていた

きれいに保存されている寺領寄進状

2. 神社

瑞穂地区にはなんと19ヵ所に神社が建立されています。

白山神社 （武連地区）

白山神社 （太田原地区）

八幡神社 （本木地区）

龍神社 （鮭尾地区）

山田郷神社 （山田地区）

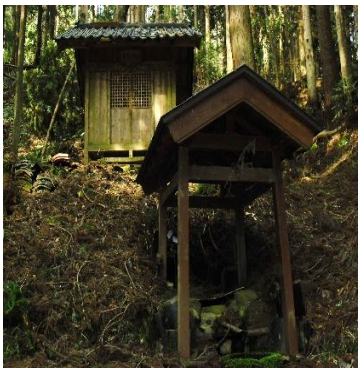
神明宮 （吉谷地区）

白山神社 （宮地地区）

稲荷神社 （西安寺地区）

木船神社 （境谷地区）

※ 宮地地区の白山神社は子宝に恵まれると言われていて、実際に参拝したところ赤ちゃんが出来たという人がいます。



神明神社（山田地区）　　度合神社（木住地区）　　稲荷神社（神道地区）

この3つの神社は人目のつかないような木々の間に安置されていますが、地域の人達が大切に守り伝えています。

日出森神社（町地区）

秀盛神社ともいわれ「八之田村に日出森とて田中に小山の宮森あり、日の出に地中より浮き出し宮といへり云々」と古書に伝えられている。
今より東北紋所の山上にあったが、一夜にして祠とも今のところに自ら移って来たという伝承もあります。

※日出森神社・大峰神社・今蔵神社の位置を線で結ぶと正三角形となるように建立されているそうです※

稲荷神社（俎倉地区）

昔、今蔵神社の氏子であったが山田の氏子と争論をして、自分たちの村にも別の神社を作ろうと相談しながら帰途についていました。二ツ橋に来た時に河上より2個の石が光を放ちながら流れて来たので、これこそは御神体にして産土神として祀るべきものと拾い上げて持って帰り、祠を建てて祭祀を行うようになったと言われています。

木住神社「白山比咩神社・劔神社」（木住地区）

弓引き祭りが行われる神社です。

旧木住神社、旧度合神社、旧気多神社の神を迎えて木住神社が創建されました。

鳥居には「白山比咩神社・劔神社」と掲げられていますが、木住に元は劔神社が鎮座していたことからではないでしょうか。なお、劔神社の神様は「菊理姫命」で白山比咩神社の神様と同じであることから並列して額に記載されたと考えられます。

次に、この神社の拝殿の上には木彫りの龍が掲げられており、地区の19ヵ所でここだけです。

これは龍神社の伝説に出てくる大蛇の棲みかがここだったので、退治されたことの喜びとして領主が彫刻の名工「春日」に龍を作らせ神社に奉納したそうです。しかし、この龍は夜になると川へ水を飲みに出るというので、龍の眼に釘を打ち付けたところ、それからは動かなくなったと言われています。

白山神社 （柏木地区）
町指定歴史資料 寛文5年（1665年）棟札

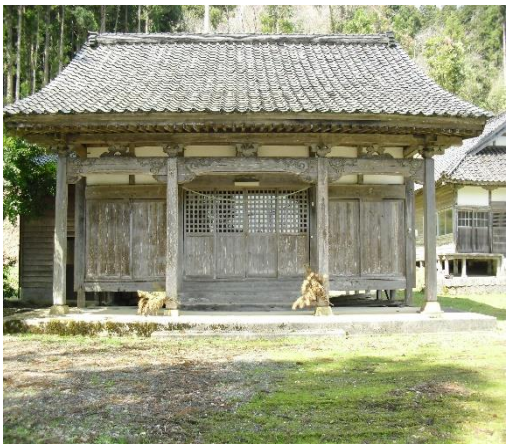
日吉神社 （神道地区）
町指定歴史資料 承応2年（1653年）棟札

今蔵神社 （町地区）
県指定工芸品
今蔵神社線刻薬師如来懸仏（鎌倉時代）
町指定工芸品
菊花散双雀鏡（室町時代）
石仏山より出土
町指定歴史資料
棟札 （文明12年 1480年）

今蔵神社は八の田にあった一郷の総社・大蔵権現と輪島の重蔵神社から分霊を勧請して合わせ、祀られています。

4月3日の節句祭に鬼討ちとし、鬼面を描いて竹矢で射っています。
その際に重蔵神社から神饌が供され、8月23日には今蔵神社より米2升が神供されていた。これは現在も存続されているそうです。
（但し、お供え物は変わっているそうです。）

※ 市姫伝説に出てくる山田御採市はここで行われていました。



大峰神社 （院内地区）
町指定工芸品
大峰神社懸仏 （鎌倉～江戸前期）
町指定天然記念物
イチョウの木 （樹齢500年以上）
県指定天然記念物
社叢 （ブナの育成地としては低海抜で、タブノキの育成地としては高海抜であるのに両方育成する極めて特異な植生を示している）

神社が鎮座する山頂付近に高宮（本殿と拝殿）がありますが、近年諸事情により御神体を山麓の逢拝殿（拝殿）に移しました。

「4月24日の春祭りの際、富裕なる者最下位に座し、富んで驕る心を戒むるなり。近郷民高宮祭と称して業を休み働けば、空より石が落下すると云えり」
と昭和の『明細帳』に記されていて、本当に石が降ってきたと言われています。

瑞穂地区の祭祀等

1. 石仏山（結界山・潔戒山）

毎年3月2日に祭りが行われる。（刃物禁止・女人禁制）

［名称］

文化10年（1813年）棟札には「於屋ヶ谷大明神」とある

文化14年（1817年）の郡方書上帳に「神道村に高嶺あり、石仏山と唱甲候。其山之内に大石立石有之」とあり、石仏山の名称が初めて記された例です。

［位置］

国道249号の神道薬師堂から御能谷内川に沿って山へ向かって進んでいくと舞台田（昔、能などの舞いが行われていた）・桟敷畠と言われている所に出る。さらに進むと、前立と呼ばれる巾0．6m・高さ3mの巨石が立っており、ここで祭祀が行われる。

その奥には唐戸と呼ばれる石組状の巨石群があり、そのまた奥に奥立と呼ばれる高さ2．8mの巨石がある。唐戸と奥立の辺りを奥の院と呼んでいる。

※郡誌より

古来より社殿を設けず斧鉞を入れず、此神特に清浄を愛し、人工を忌むを以て社殿を営むこと数回なるも一夜にして毀壊せられし。
今尚、女人14才に達するも入るを許さず。強いてこれを侵す時は鬼女となるといへり。獣畜も亦畏れて之を踏まず。

宵祭り

① 当元宅に当人が集まって、行われます。
② 床の間に三把ワラの上部を縛って三脚状にしたものに御幣を差し、両脇に榊をたてます。
③ 榊を神様の依り代わり（神ろぎ）として豊作を願います。
※ 宵祭りは田の字となる4つの部屋を使用します。

本祭り

① 翌朝当元宅から触れ太鼓の合図で住民が集まり、太鼓を鳴らしながらお山へ登って行きます。
② 前立に注連縄を張り海山野の幸を供え、がやの木の枝に神ろぎ（御幣）と蝋燭を差し神主がお祓いをします。
③ 参列者は御幣の紙を湯に浸し、それで目を拭き心身を清めます。
④ 玉串を捧げて、大己貴命（大国主）・少彦名神の降臨を待ち豊作を願います。
⑤ 下山後、当元宅で直会となります。
⑥ 直会には引き継がれてきた献立が、赤御膳に乗せられています。
互いにお酌を交わしながら、次回の当元が決められ会は終了となります。

献立

・赤飯　・鰤大根なます　・オワリ大根
・煮物（豆腐,蕗,人参,小芋,牛蒡）
・青菜と豆腐の味噌汁
・酒2合

2. 木住神社の弓引き祭り

3月28日に弓引き祭りが行われ、鬼討ちと称して鬼面を描き的とし、参詣人が竹で作った弓矢で射的した後、白と草の餅で作った小さい菱餅を退治したお祝いとして、太鼓の拍子に合わせて参詣人に散餅します。その間、有志の者が桃花の枝を持って喜びを現す様を即興的に踊ります。

神社で参詣人は、お清めのお湯に浸した御幣の紙で目を拭き清めるが、この時目の悪い人はこのお清めにて治ると言われています。

3. 神道の柿バッコウ（八講）

11月4日に日吉神社で、新嘗祭として地区の各家で渋抜きをした柿を重箱に入れて氏神さまにお供えし、神事を行った後参拝している人々に分け与えます。

神道柿の云われ

昔、神道の四郎左エ門という人がいました。四郎左エ門はとても勉強家で、「本」が大好きで色々な国の珍しい植物を紹介する本の中から「柿」というものを見つけました。どうしても「柿」というものを食べてみたくて、四郎右衛門は京都へ働きに出た時に柿を食べ、あまりのおいしさに田舎で作ることにした。数年後に柿の苗木を持ち帰り地区の人々にも配り植えさせました。見たことも聞いたこともない苗をみんなは、一生懸命育てたところ赤い柿が実り、山田城主に献上したところ「形は小さいが味がとても良い」と賞味し『神道柿』と命名しました。

因みに、この中でも柿がよく生えた所を「柿生」と称したということです。

写真で見る祭祀等の今昔

昭和時代の稲荷神社（西安寺地区）春祭り

昭和20年の婚礼（西安寺地区稲荷神社）

平成30年大峰神社（院内地区）春祭り

平成30年地蔵さま（本木地区）祭り

平成30年八の田地区夏祭り

あとがき

瑞穂地域のお寺・お宮・お地蔵様・地神様・庚申塚いろいろと探してみると探して見るほどわからない事が沢山あり、記録に残してみようと思いましたが地域の昔のことを知っている人が少なくなり、十分な調査が出来ませんでしたがまだまだ元気な方々に公民館に来てもらったり、現地を訪れることによって沢山の事を教えてもらいながら新しい発見に出会えた喜びも味わえることが出来て有意義な調査となりました。しかし、知らない事やわからない事が沢山あってこれからも調査をする必要があるのではと思いました。
これを機に、瑞穂の魅力を地域全員が今一度探す機会になればと思います。

平成31年3月吉日

能登町立瑞穂公民館長

引用　参考文献

・「石川県神社誌」1976年　石川県神社庁
・「石川県鳳至郡誌」第2巻　1973年　鳳至郡誌復刊委員会
・「能登町の文化財」第3輯　2015年　能登町教育委員会
・「能都町史」第1巻資料編（自然・民族・地誌）1983年　能都町
・「能都町史」第3巻歴史編　1982年　能都町
・「広報能都」157～254号　能都町
・「能都町民話・方言集」1977年　能都町教育委員会

協力者

情報提供　山岸　弥八郎　山下　国昭　山下　ミチ子
辻野　貞英　坂本　征次　高井　邦夫
高山　一夫宮司　洞雲寺住職（藤立　光雄）

編集委員　谷口　敏夫　辻野　祐二　向平　巧
木村　實夫　坂口　好子　奥野　睦
南　正一

表紙題字　石井　良明

協力　能登町教育委員会